

平成 26 年度事業報告

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

I はじめに

美術館が開館してから 5 年が経過しました。また金谷で町おこしという活動が本格的に始まってから 8 年の歳月が経とうとしている。

単なる芸術の鑑賞だけでなく、地域の歴史・文化、そして地域資源を活用し活性化を進める中、開館した美術館である。展観事業だけでなく「石と芸術の町」を合言葉に地域内の遊休資産の再活用、地域の行事やイベントを開催し、多くのボランティアの協力により地域全体を視野に入れた活動を行ってきた。少子高齢化、過疎化、商業・産業の衰退が進んでいる房総地域にあって、地域固有の特性を活かしながら、賑わいのあるまちづくりを実現し、地域振興に貢献し、地域の文化、芸術、教育にも寄与することが金谷美術館の使命である。

昨年度よりは公益財団法人日本美術協会上野の森美術館のご協力を頂き、美術館運営の基本について指導を頂く事ができました。いろいろな指導を仰ぎながら 1 年間運営を行って来ました。実績にはまだその成果が現れていないが着実に金谷美術館の知名度は高まって来きており、展観事業に付いても基礎がしっかりとした安定したものになって来ている。

元彫刻の森美術館館長でシニアアドバンザーの鈴木隆敏氏による運営指導により上野の森大賞展受賞作品や収蔵品、そして御縁のある世界的版画家野田哲也氏の貸与を頂き展開事業を推進して来た。またワークショップの実施や他美術館の展示会や歌舞伎等の見学ツアーも実施して来た。

また昨年 10 月には 2 回目となるバリ金谷インターナショナルアートウィークを実施しバリ島より小学生 27 名、先生 9 名、引率関係者を合わせ総勢 39 名の国際交流団をお招きし美術館が中心になり国際交流を行いました。石の文化、芸術性の歴史など金谷地区とバリ島とは関連する部分が多く、今回の交流を通じお互いの芸術交流により新たな芸術的価値の創造を図り、今後の交流の拠点として金谷の地域活性にも寄与することが期待できる。

また地域の貴重な観光資源である鋸山の登山道修復のためちばの WA 地域づくり基金の協力のもと鋸山登山道修復募金を募っています。今年度の登山道修復については JR 東日本関連の東日本鉄道文化財団の地方文化財支援事業よりの支援と合わせ、手すりの設置、案内版 3 基設置、階段の補修を行った。近年産業遺産としての価値が見直されてきた鋸山の遺構の「車力道」の修復事業と合わせ、地域の観光振興にも大きく寄与する事が出来た。

また平成 20 年から開始している「金谷石のまちシンポジウム」は平成 26 年 11 月に第 6 回を数えるまでになった。石の研究者の協力により続けて来たこの事業により鋸山の産業遺産としての歴史的価値が高い評価を得る事ができ

て来た。視察や講演の依頼も増えて来ており、鋸山や地域に対する興味が高まって来ているのを感じる。

地域との連携では金谷小学校児童の絵画の展示を毎回ロビーで行い、今後については富津市内のコンクール優秀作品（防災ポスターコンクールなど）を館内に展示するなどの要請もきており、美術館を通じた地域の子ども達への教育へも貢献して行きたい。

その中で残念なのは旧鋸山観光ホテル跡地をシェアアトリエとして活用した KANAYA BASE が 2014 年 12 月末で閉館した事である。これは建物の利用が耐震性の基準を満たしておらず安全性の面から止む無くの措置であった。多くの若者が集い金谷の新しい拠点として運営も軌道に乗り出していただけに残念である。引き続き跡地の利用に付いては所有者と協議をしながら進めて行き、金谷の活性化に寄与できるものを計画して行きたい。

当公益財団法人の事業は、公益財団法人に相応しい目的に沿った公益目的事業を、積極的に展開しているが、これらの事業は入館収入や独自の財政力では無理があり、多くの法人、団体、個人の支援なくしては困難である。平成 26 年度において募金活動を積極的に推進してきた結果、寄付金・募金収入として 23,400 千円を計上する事が出来た。引き続き金谷美術館の使命と意義を多くの方に理解して頂き支援を仰ぎながら安定的に運営を行っていけるよう努力する。

II 公益における事業の概況

金谷美術館は、地域の町おこしの中できた美術館である。いにしえより鋸山での石切りの歴史文化があり風光明媚な景色と恵まれた地域資源を有しながらも、過疎化、少子高齢化等、現状を打破するため、数多くの篤志家とボランティアの支援と協力を得ながら、地域活性化の核としてこの美術館を運営して行く。優れた芸術作品を風光明媚で古来より多くの芸術家に愛されたこの地で展示することは地域の芸術文化啓蒙活動に寄与する事はもちろん、外部より訪れてくれた方に癒しと知的満足感を与え魅力ある地域づくりに貢献していく。

III 平成 26 年度の公益財団事業の実施状況

1 平成 26 年度公益財団の展示事業と金谷美術館入館者数

平成 26 年度中の金谷美術館の展示事業は、別表 1 - 2 及び別表 1 - 3 のとおりである。入館者数は 4,074 人と、前年度に比較して約 1,500 名減少した。昨年度実施したコンクール展が今年に行えなかった事が主な要因であるが、助成金を含め魅力的な思い切った企画を打ち出せなかったり、広報が上手に出来なかったからである。展覧事業の収支は非常に厳しい状況である。魅力ある展覧事業の開催はもちろんであるが、広報にも更に力を入れ各団体と連携

を図りながら入館者増進に努めて行く。

2 展観事業以外の美術館主催の事業

金谷美術館は、地域の活性化の核となり、地域振興、地域の人材育成をも一体として実現し、関連行事を美術館が主催者となって、目的事業である次の行事を開催している（別表 2-1、2-2）。

別表 2-1 は、平成 26 年度中の事業すべてを掲載しているが、このうち展観事業以外では次の事業が実施されている。

(1) 人材育成事業（定款第 4 条第 2 号）

- ミュージアムコンサート（クラシックフォージャパン）
- ワークショップ（橋本先生、大高幸先生）
- 国際交流事業（バリ金谷インターナショナルアートウイーク）
- 見学ツアー（ボストンコレクション北斎展、歌舞伎南総里見八犬伝）

IV 運営組織の開催状況

平成 26 年度

第 1 回理事会、評議員会の開催

(1) 日時 平成 26 年 6 月 18 日（水）

出席評議員（4 名）出席理事（5 名）

議案①平成 25 年度事業報告

②平成 25 年度決算報告

③その他

第 2 回理事会、評議員会の開催

(1) 日時：平成 26 年 2 月 5 日（水）

出席評議員（4 名）出席理事（5 名）

議案①基本財産の受入れ

②基本財産の処分

③定款変更

④その他

第 3 回理事会、評議員会の開催

(1) 日時：平成 27 年 3 月 16 日（月）

出席評議員（3 名）出席理事（5 名）

議案①平成 27 年度事業計画（案）

②平成 27 年度収支予算（案）

③その他